

問 1 5 「経験あり」とお答えの方：鑑定入院期間は適切でしたか。

- ⑳
- | | | | | | |
|--|------|--------|--------|--------|------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | 長すぎた | やや長すぎた | ちょうどよい | やや短すぎた | 短すぎた |

問 1 6 診断のための資料や情報は十分でしたか。

- ⑳
- 1 十分に得られた
 - 2 ある程度得られた
 - 3 どちらともいえない
 - 4 あまり得られなかった
 - 5 得られなかった

問 1 7 『医療観察法鑑定ガイドライン』は参考になりましたか。

- ㉑
- 1 たいへん参考になった
 - 2 ある程度参考になった
 - 3 どちらともいえない
 - 4 あまり参考にならなかった
 - 5 参考にならなかった

問 1 8 鑑定した対象者について、審判でどのような決定が下されたか、ご存知ですか。

- ㉒
- 1 くわしく知っている
 - 2 ある程度知っている
 - 3 どちらともいえない
 - 4 あまり知っていない
 - 5 知っていない

問 1 9 鑑定の報酬について、どうお考えですか。

- ㉓
- | | | | | | |
|--|------|--------|----|---------|-------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | 多すぎる | やや多すぎる | 適当 | やや少なすぎる | 少なすぎる |

問 2 0 今後も鑑定を引き受けたいと思いますか。

- ㉔
- | | | | | | |
|---|---|---|----------------|---|------------------|
| ㉔ | ↓ | ┌ | 1 積極的に引き受けたい | └ | → 次頁の間24へお進みください |
| | | | 2 余裕があれば引き受けたい | | |
| | | | 3 どちらともいえない | | |
| | | | 4 あまり引き受けたくない | | |
| | | | 5 引き受けたくない | | |

問 2 1 「あまり引き受けたくない・引き受けたくない」とお答えの方：よろしければ理由をお書きください。

㉕

→次頁の間24へお進みください

問22 「鑑定を命じられた経験なし」とお答えの方：今後、鑑定を引き受けたいと思いますか。

- 1 積極的に引き受けたい
- 2 余裕があれば引き受けたい
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり引き受けたくない
- 5 引き受けたくない

問24へお進みください

27

問23 「あまり引き受けたくない・引き受けたくない」とお答えの方：よろしければ理由をお書きください。

28

IV. 医療観察法の審判員についてうかがいます。

問24 これまでに裁判所から審判員を命じられた経験をお持ちですか。

1 あり (回)

2 なし

次頁の問31へお進みください

29

30 31

問25 「経験あり」とお答えの方：どの程度の負担を感じられましたか。

- 1 非常に負担を感じた
- 2 多少負担を感じた
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり負担を感じなかった
- 5 負担を感じなかった

次頁の問27へお進みください

32

問26 「負担を感じた」とお答えの方：よろしければ理由をお書きください。

33

問 2 7 「経験あり」とお答えの方：合議の方法は適切でしたか。

- 1 たいへん適切だった
- 2 どちらかという適切だった
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切ではなかった
- 5 適切ではなかった



34

問 2 8 「あまり適切でなかった・適切でなかった」とお答えの方：よろしければ理由をお書きください。

35

問 2 9 「経験あり」とお答えの方：鑑定結果は妥当と思われましたか。

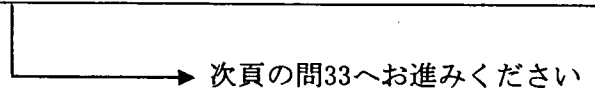
- 1 たいへん妥当だった
- 2 どちらかという妥当だった
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり妥当でなかった
- 5 妥当でなかった

36

問 3 0 審判員の報酬について、どうお考えですか。

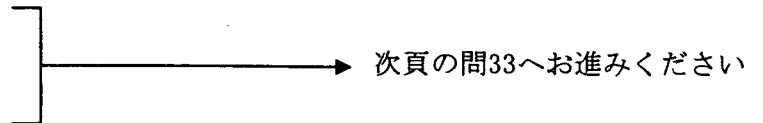
- | | | | | |
|------|--------|----|---------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 多すぎる | やや多すぎる | 適当 | やや少なすぎる | 少なすぎる |

37



問 3 1 「裁判所から審判員を命じられた経験なし」とお答えの方：今後、審判員を引き受けたいと思いますか。

- 1 積極的に引き受けたい
- 2 余裕があれば引き受けたい
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり引き受けたくない
- 5 引き受けたくない



38

問 3 2 「あまり引き受けたくない・引き受けたくない」とお答えの方：よろしければ理由をお書きください。

39

V. 判定医としての知識の向上のため、どのような機会を希望されるかをうかがいます。

問33 次の(1)～(12)について、それぞれ1つずつお答えください。

	強く希望する	希望する	どちらともいえない	あまり希望しない	希望しない
(1) 指定入院医療機関の見学・研修	1	2	3	4	5
(2) 対象者についてのケース・カンファランス	1	2	3	4	5
(3) 司法関係者と医療関係者の合同カンファランス	1	2	3	4	5
(4) 刑務所などの矯正施設の見学	1	2	3	4	5
(5) 裁判所の見学・傍聴	1	2	3	4	5
(6) 海外の司法精神医学施設の見学・研修	1	2	3	4	5
(7) 法律家による刑法などについての講習	1	2	3	4	5
(8) 責任能力の考え方や判定についての講習	1	2	3	4	5
(9) 症状評価やリスク評価についての講習	1	2	3	4	5
(10) 認知行動療法についての講習	1	2	3	4	5
(11) 人格障害、発達障害、物質関連障害などについての講習	1	2	3	4	5
(12) 司法精神医学の研修センター、鑑定センターの設立	1	2	3	4	5

④～⑤

問34 上記以外でご希望があればお書きください。

VI. 医療観察法に関して感じておられることや、制度の見直しについてのご意見を自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力に感謝します。

図1

問1 推薦を受けた地区

N = 367

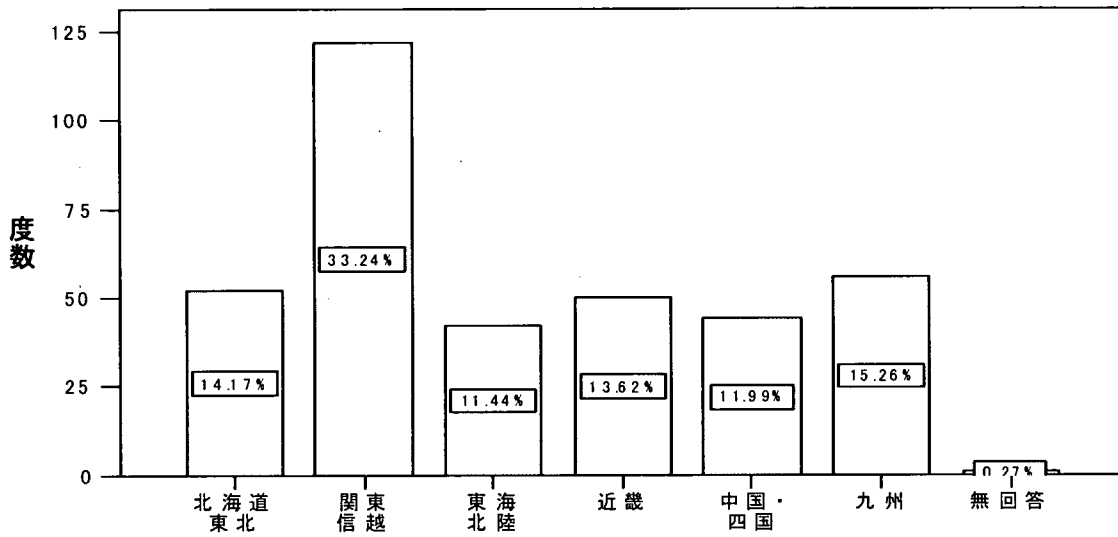


図2

問2 主な勤務先

N = 367

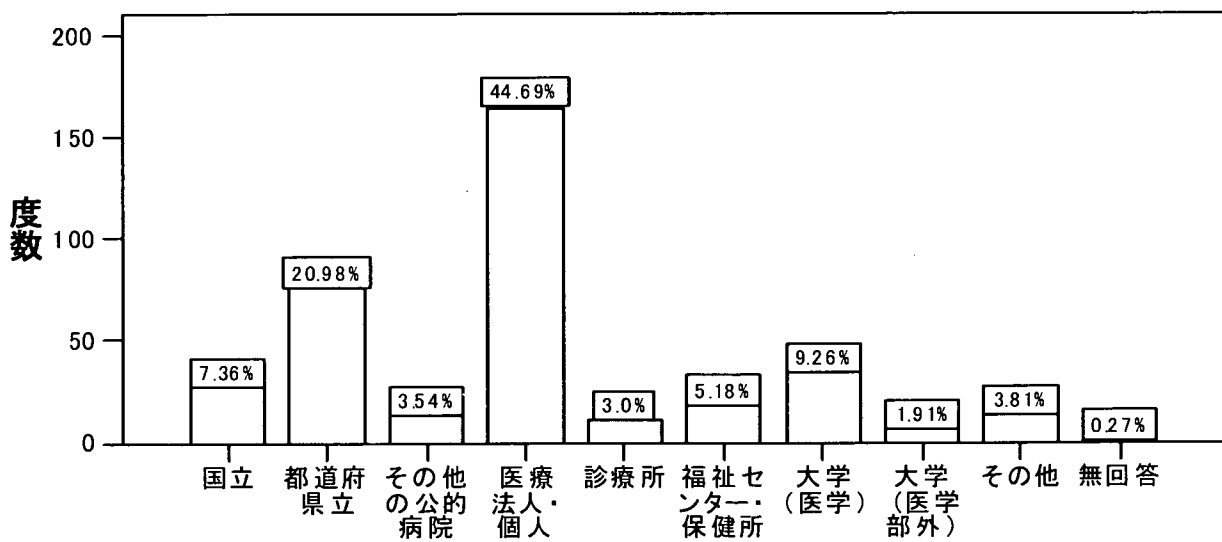


図3

問3 精神科の臨床経験年数

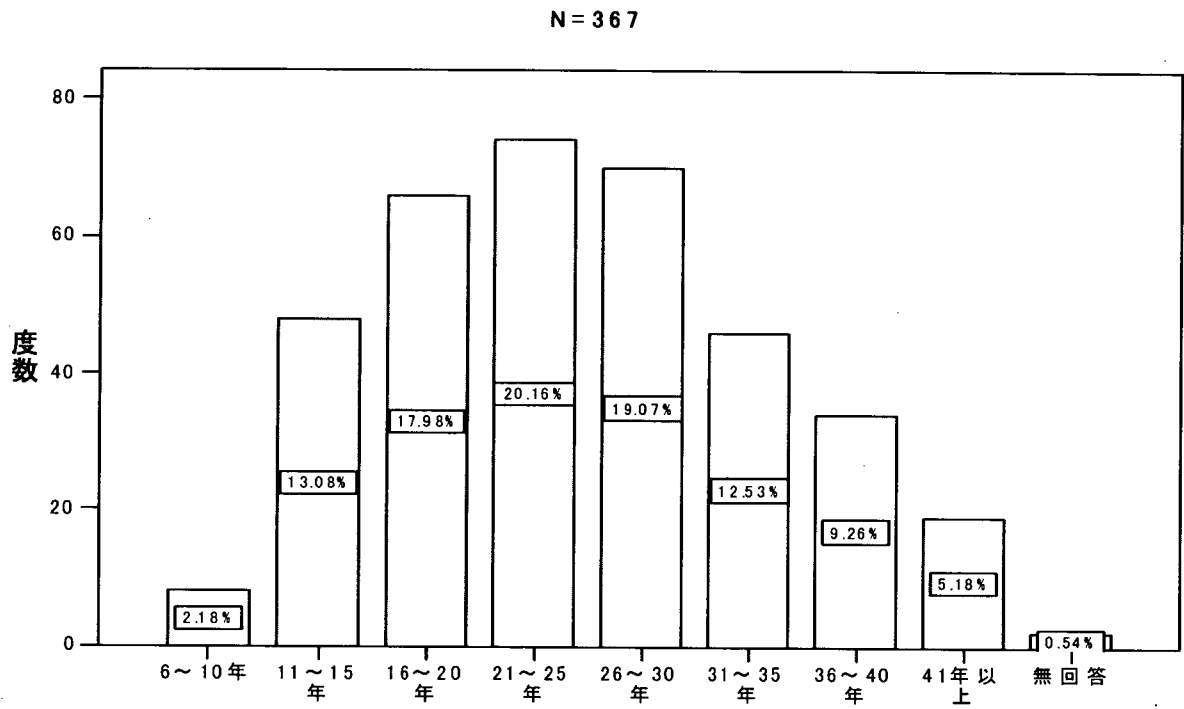


図4

問4 刑事鑑定の経験件数

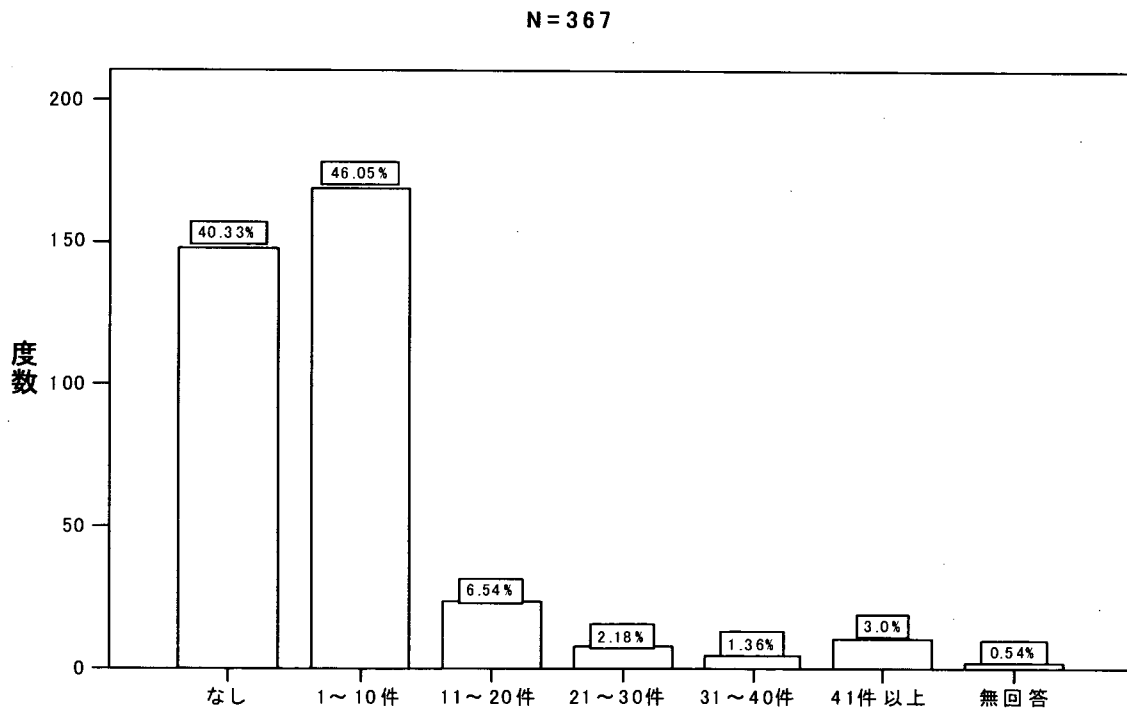


図5

問5 簡易鑑定の経験件数

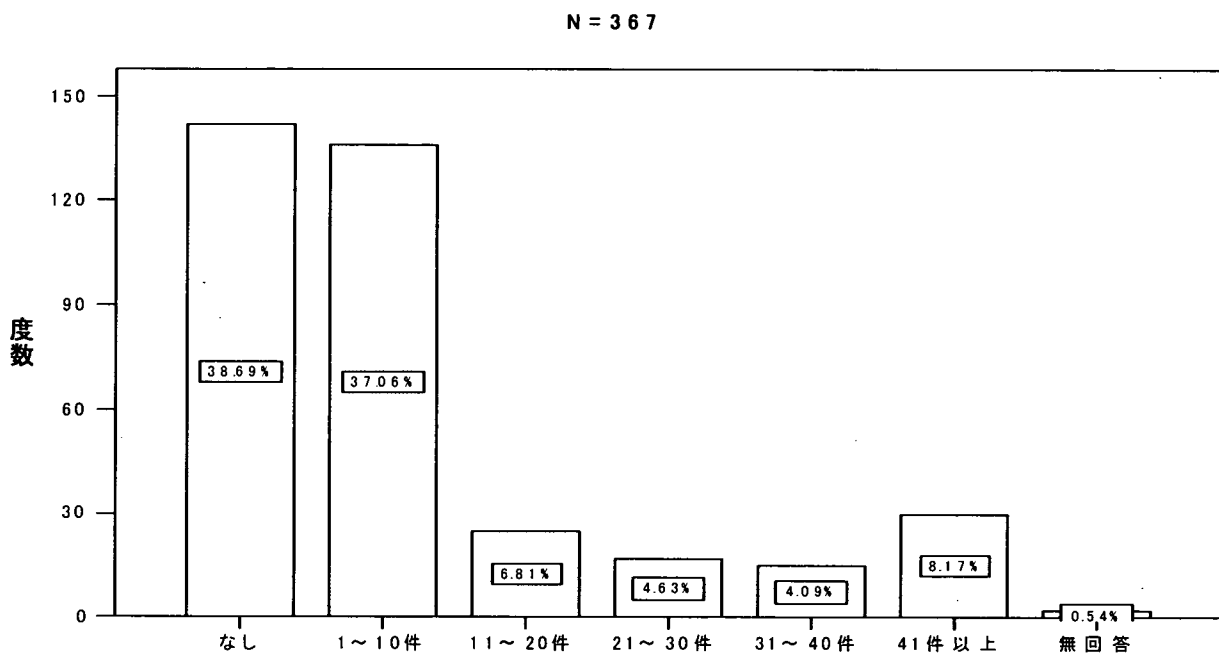


図6

問6 学習経験

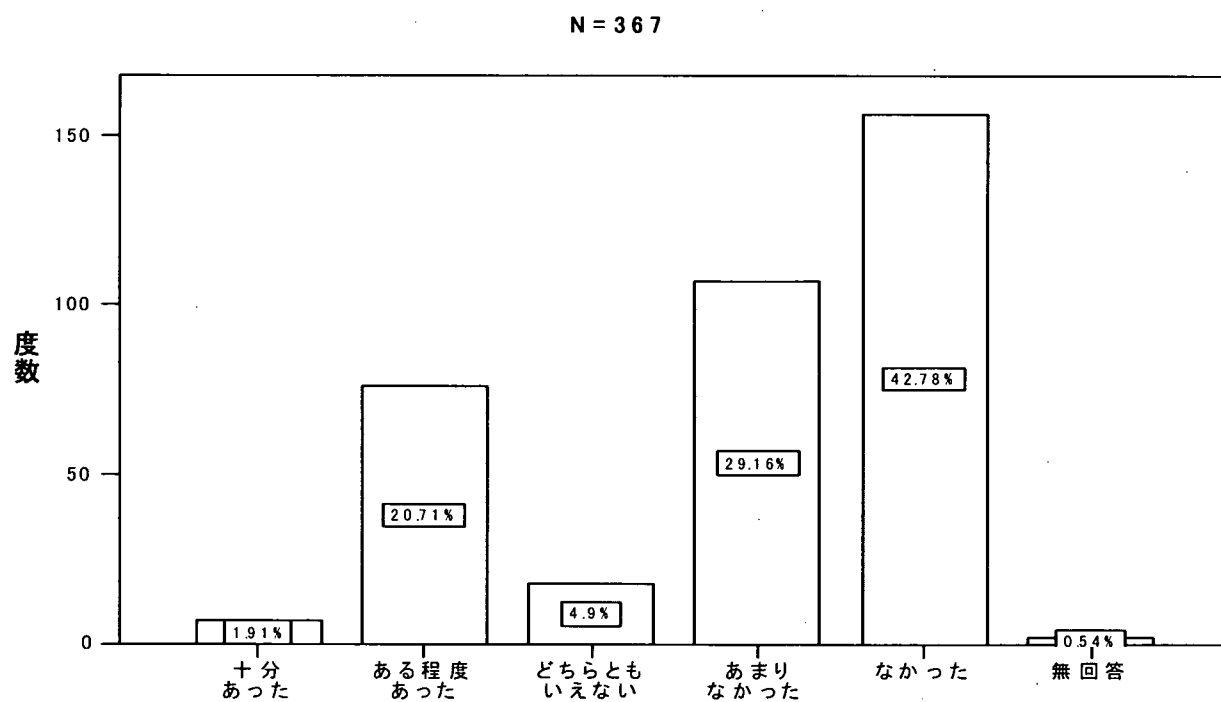


図7

問7 司法精神医学会の会員

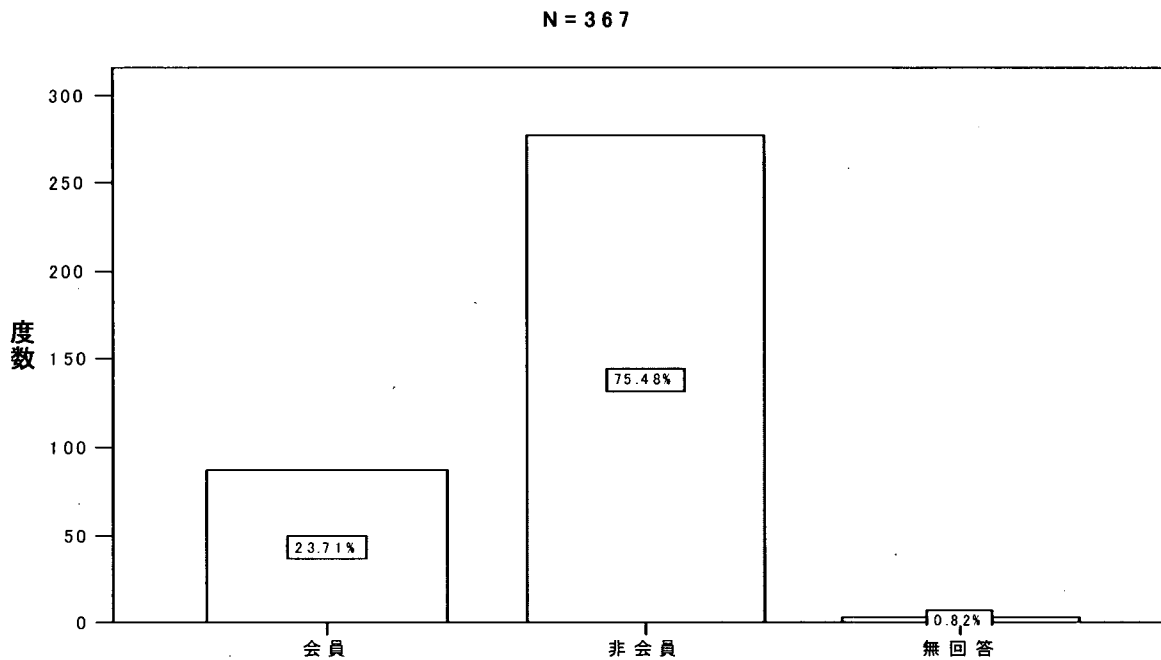


図8

問8 研修期間

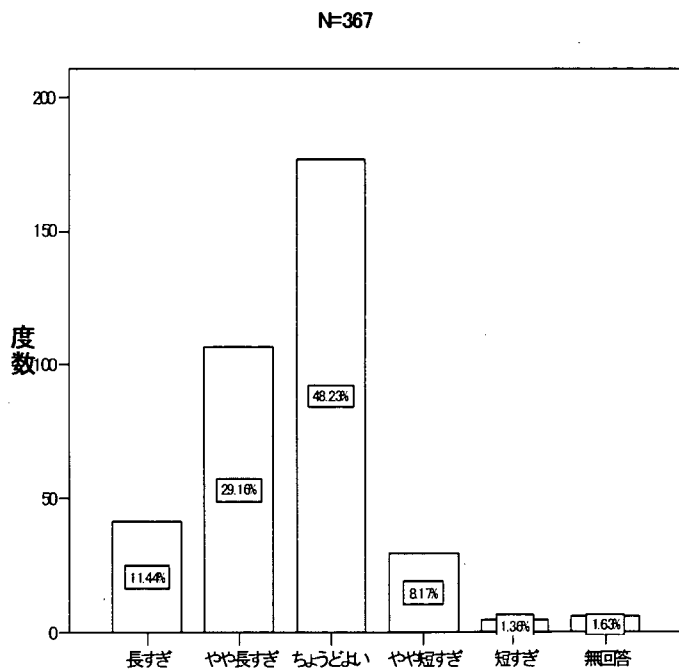


図9

問9 テーマや内容の評価

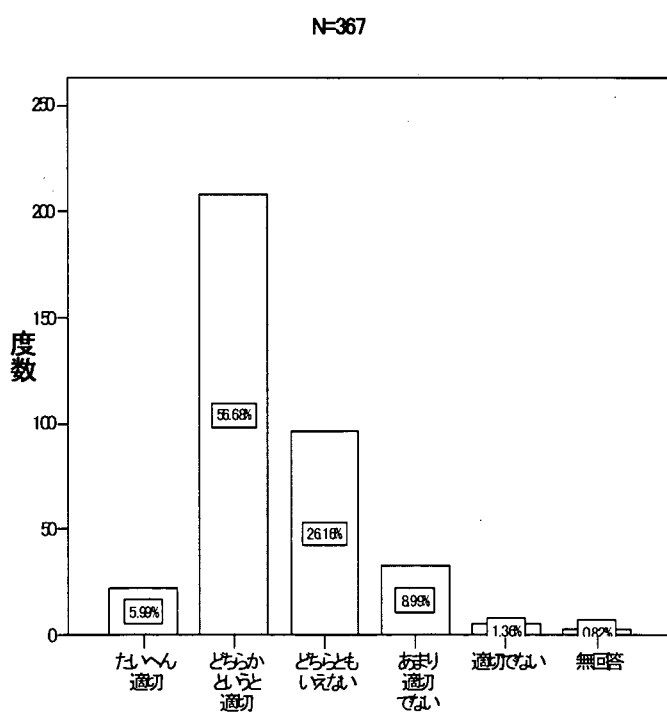


図 10

問10 知識や情報が得られたか

N=367

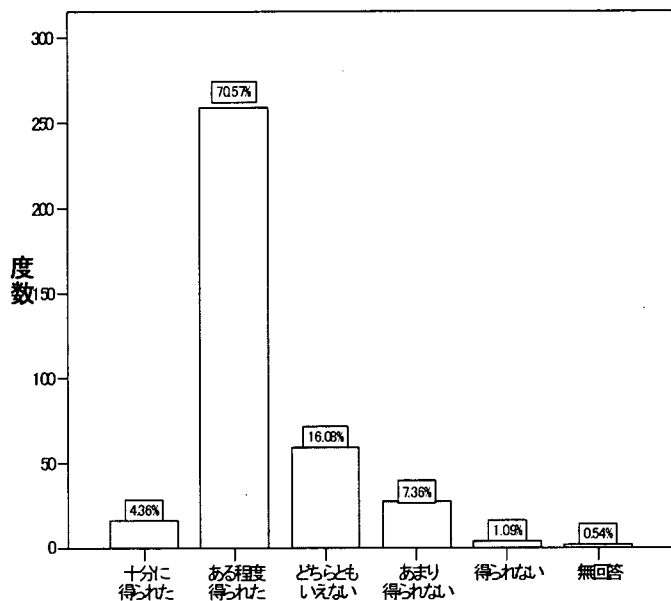


図 11

問11 裁判所からの鑑定経験

N=367

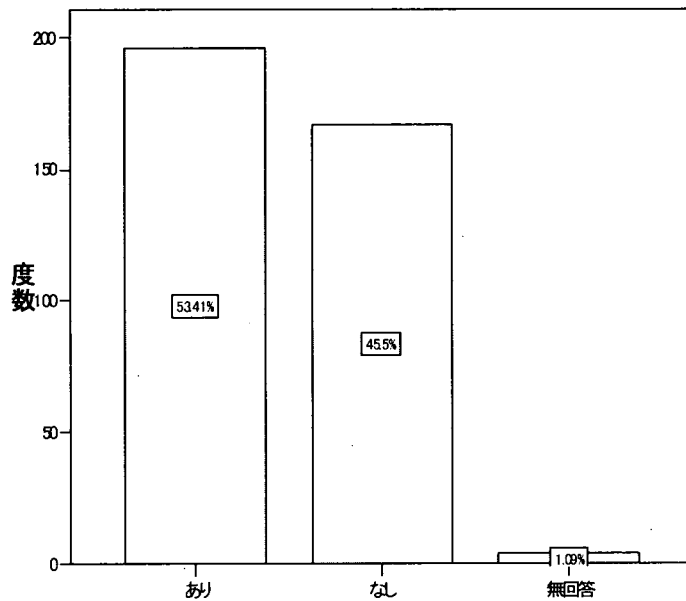


図 12

問 11 鑑定経験回数

N = 196

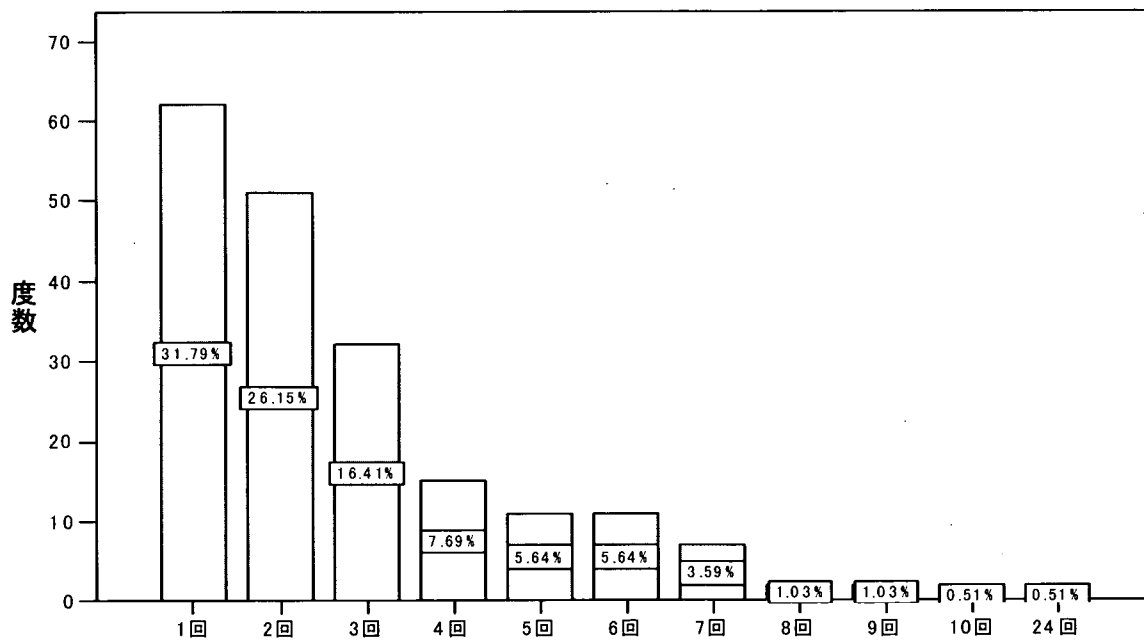


図 13

問12 鑑定場所

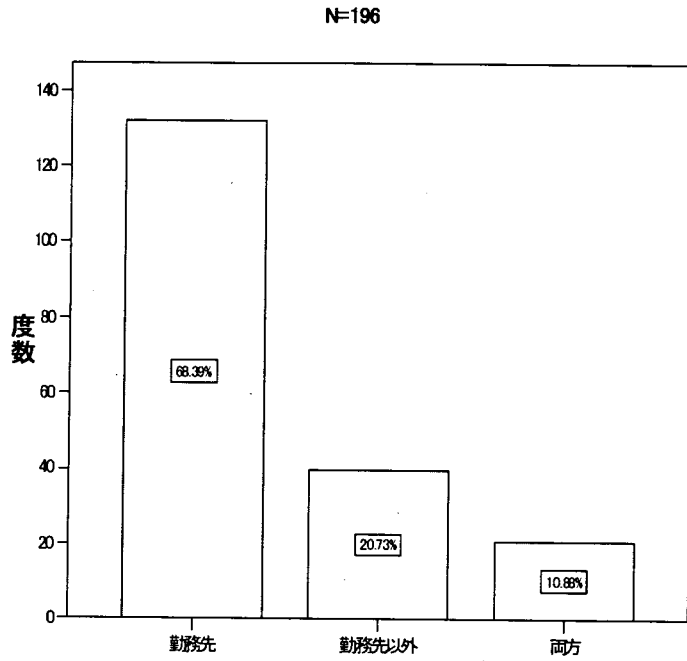


図 14

問13 鑑定の負担感

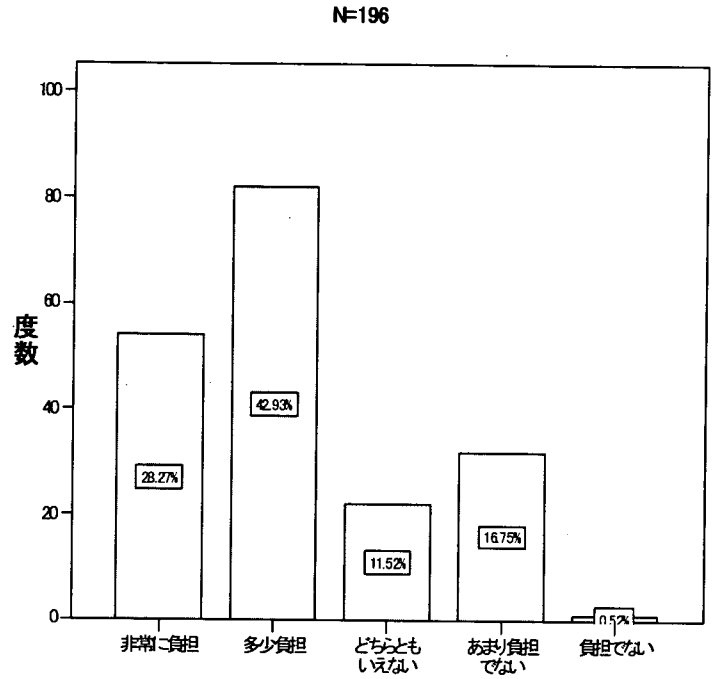


図 15

問15 鑑定入院期間

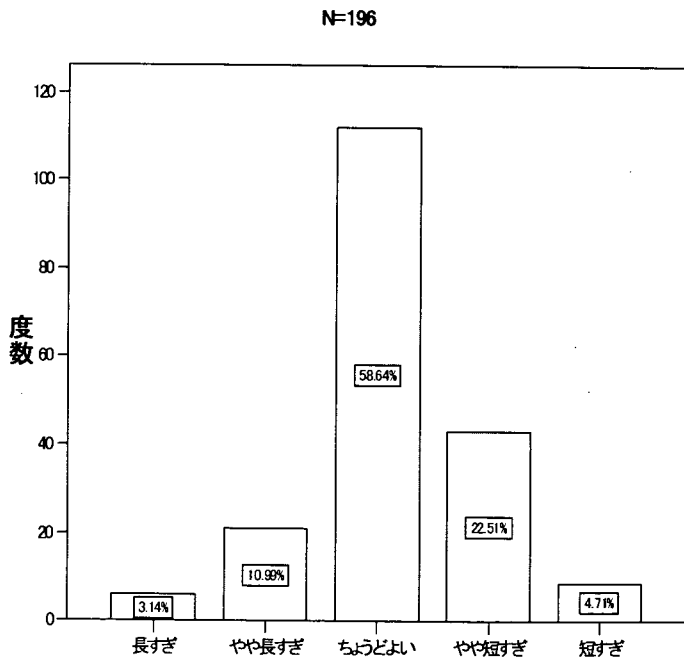


図 16

問16 診断資料等の十分さ

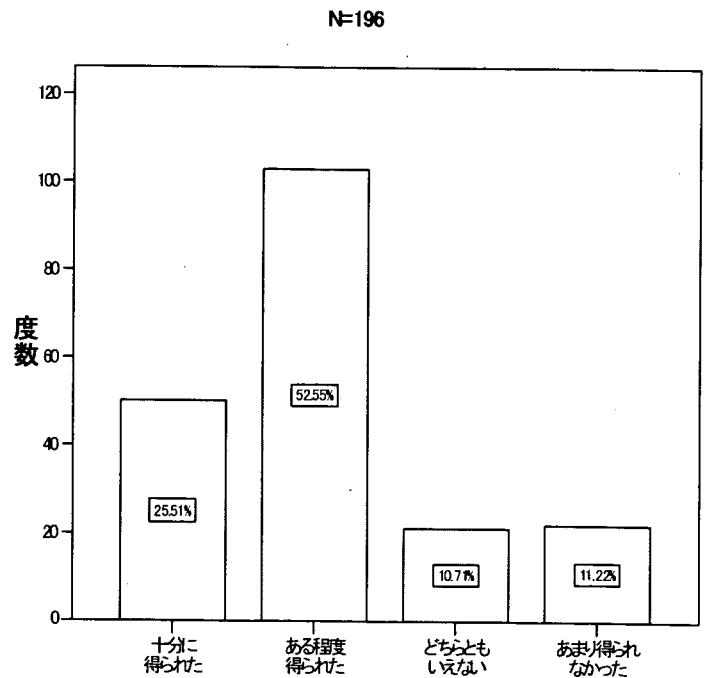


図 17

問17 鑑定ガイドラインについて

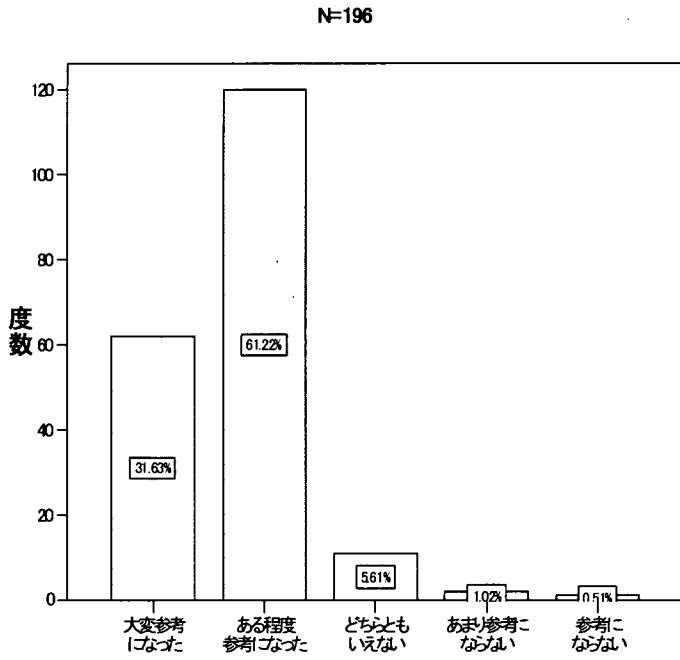


図 18

問18 審判の決定について

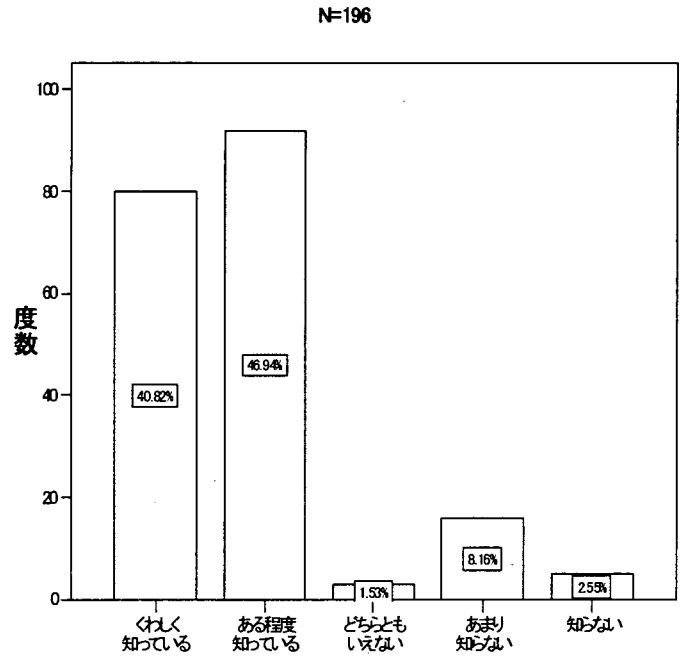


図 19

問19 鑑定の報酬について

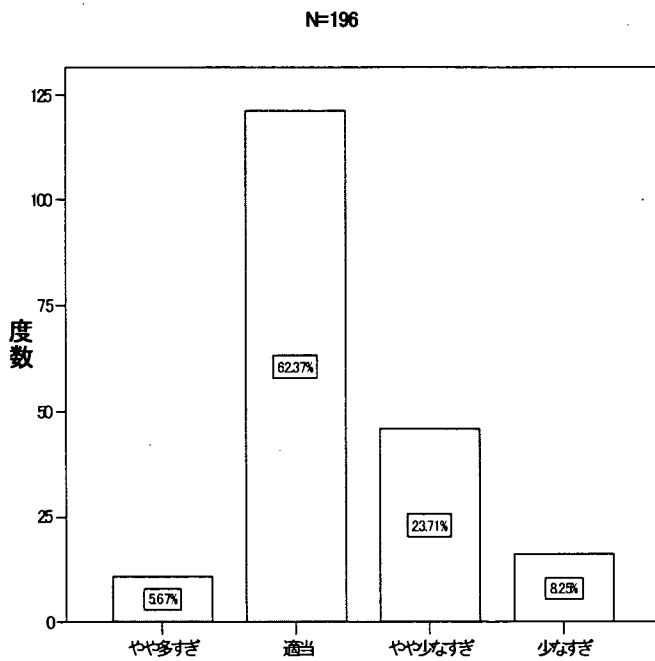


図 20

問20 鑑定への意欲

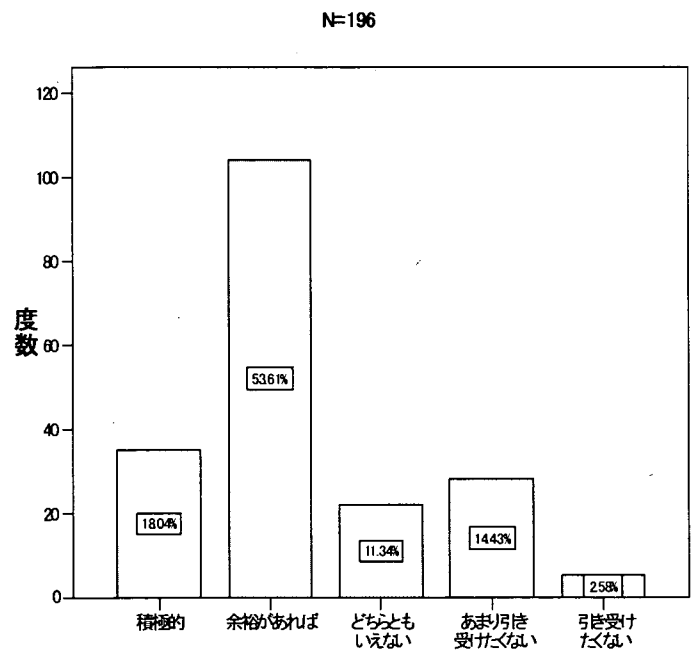


図 21

問 22 鑑定への意欲(鑑定経験なし)

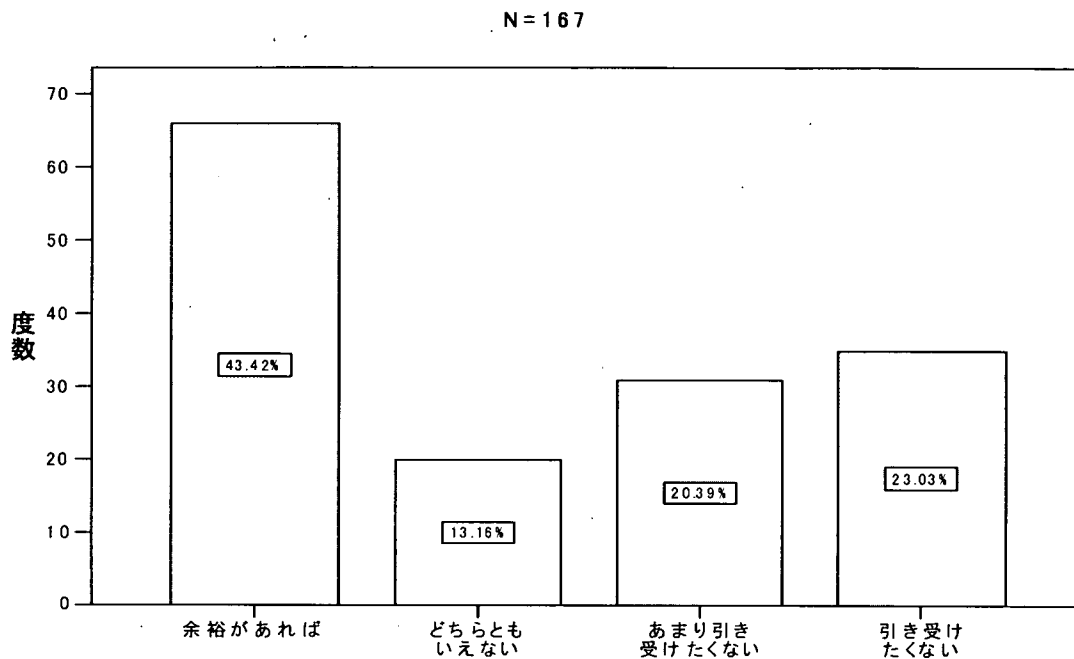


図 22

問 24 審判員経験

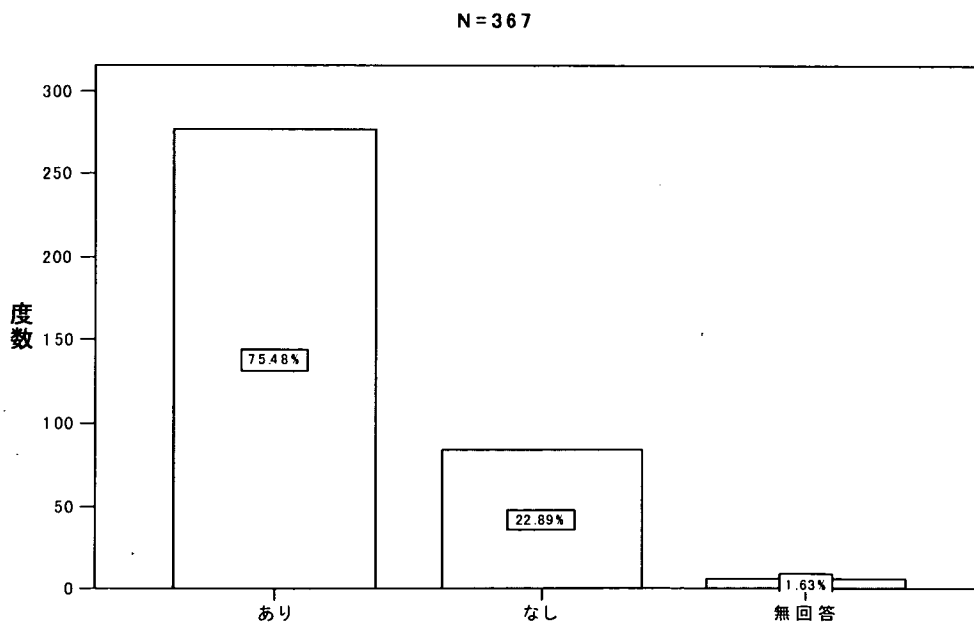


図 23

問 2 4 審 判 員 経 験 回 数

N = 277

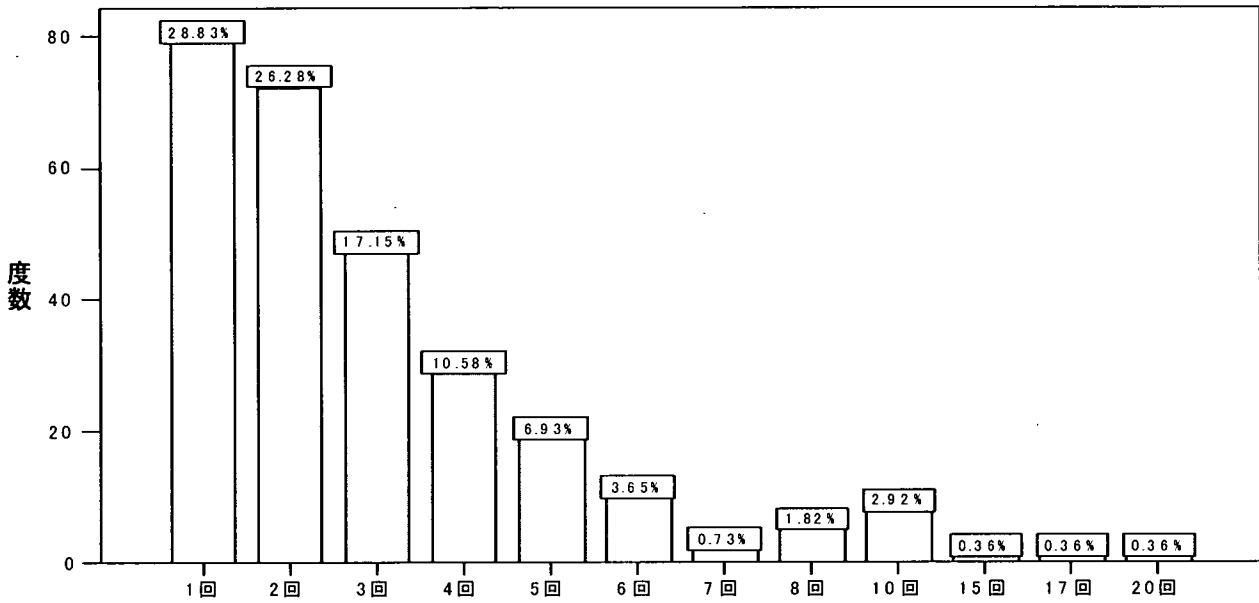


図 24

問25 審判員の負担感

N=277

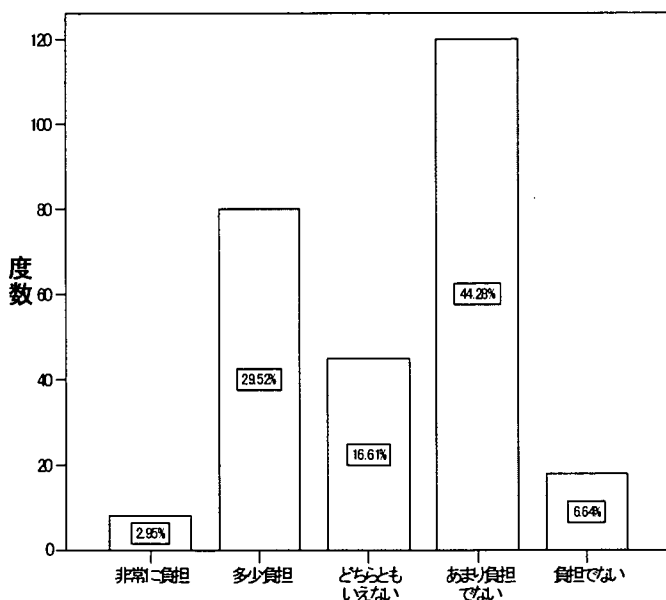


図 25

問27 合議の方法について

N=277

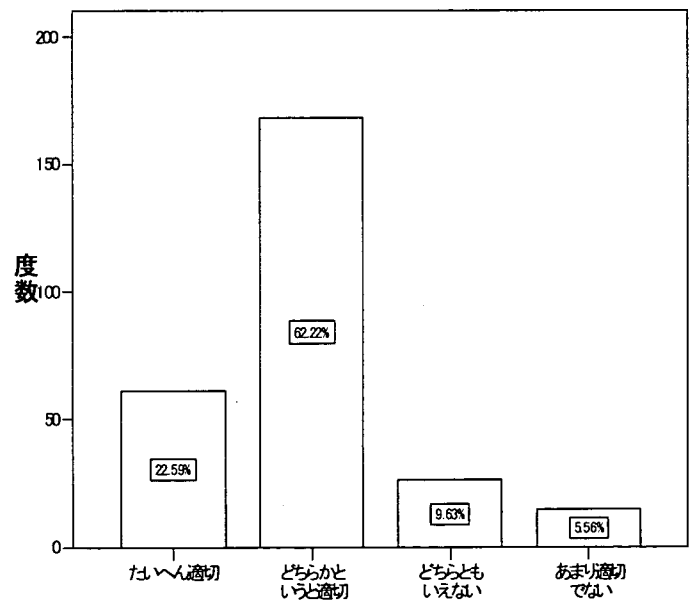


図 26

問29 鑑定結果の妥当性

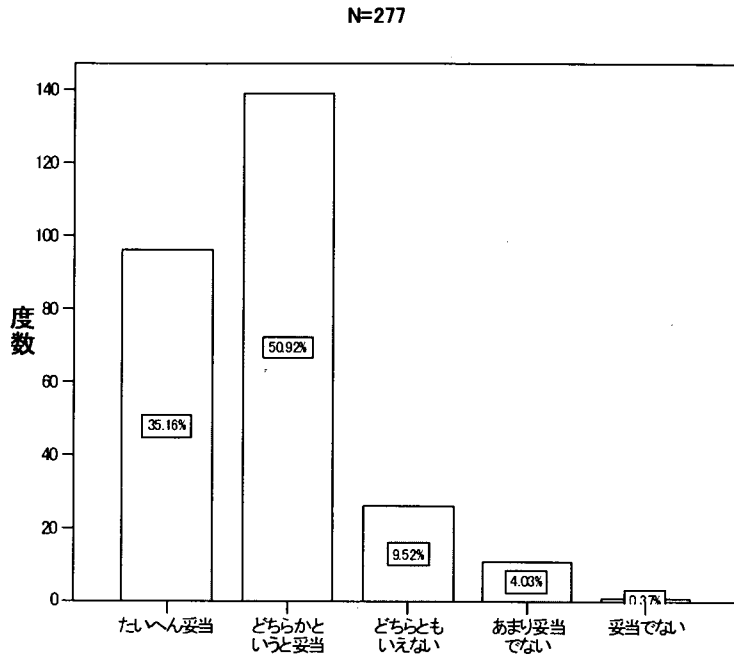


図 27

問30 審判員の報酬

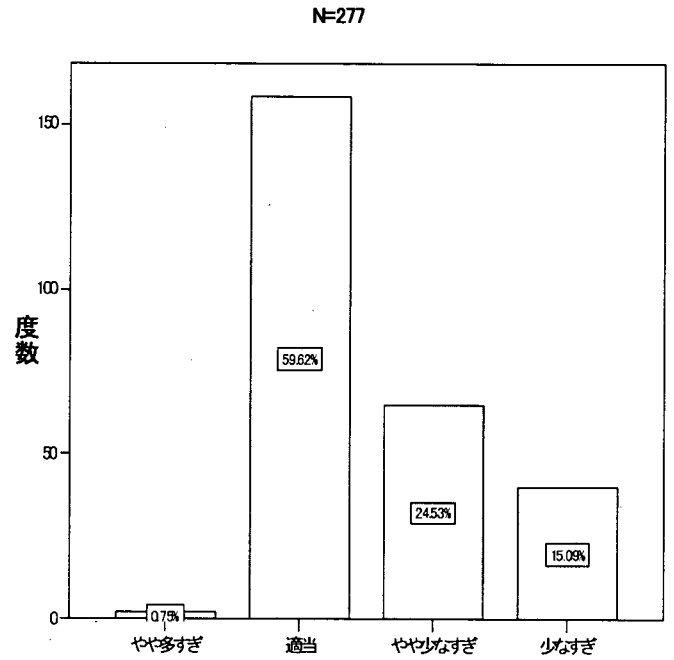


図 28

問 31 審判員への意欲(経験なし)

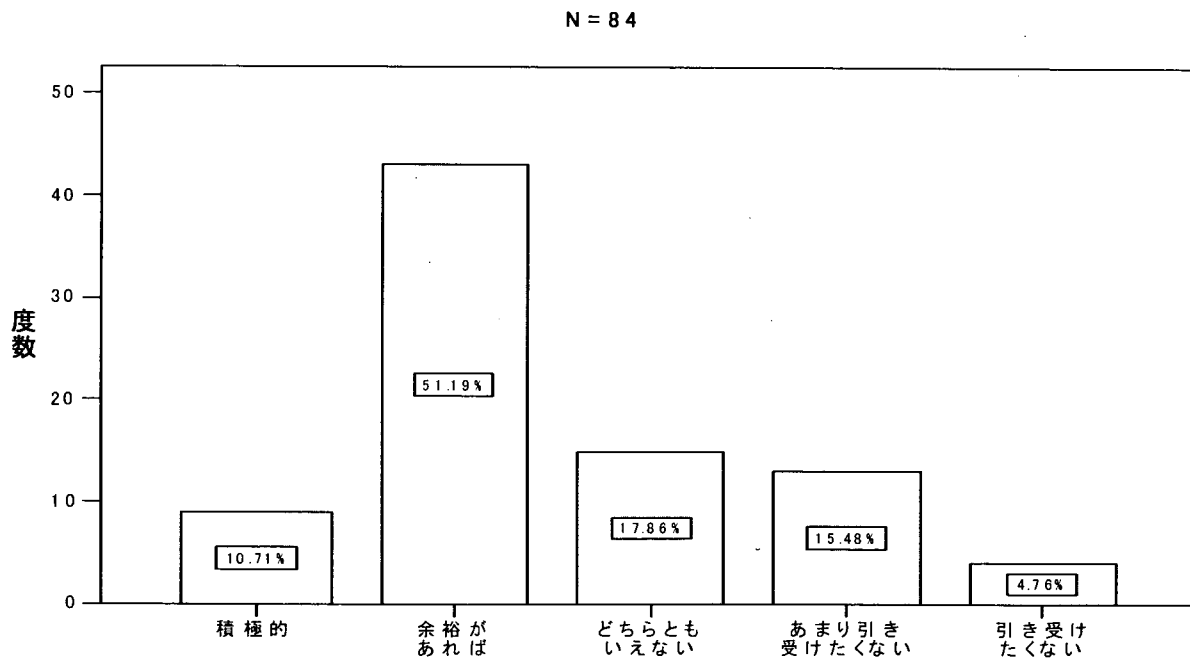


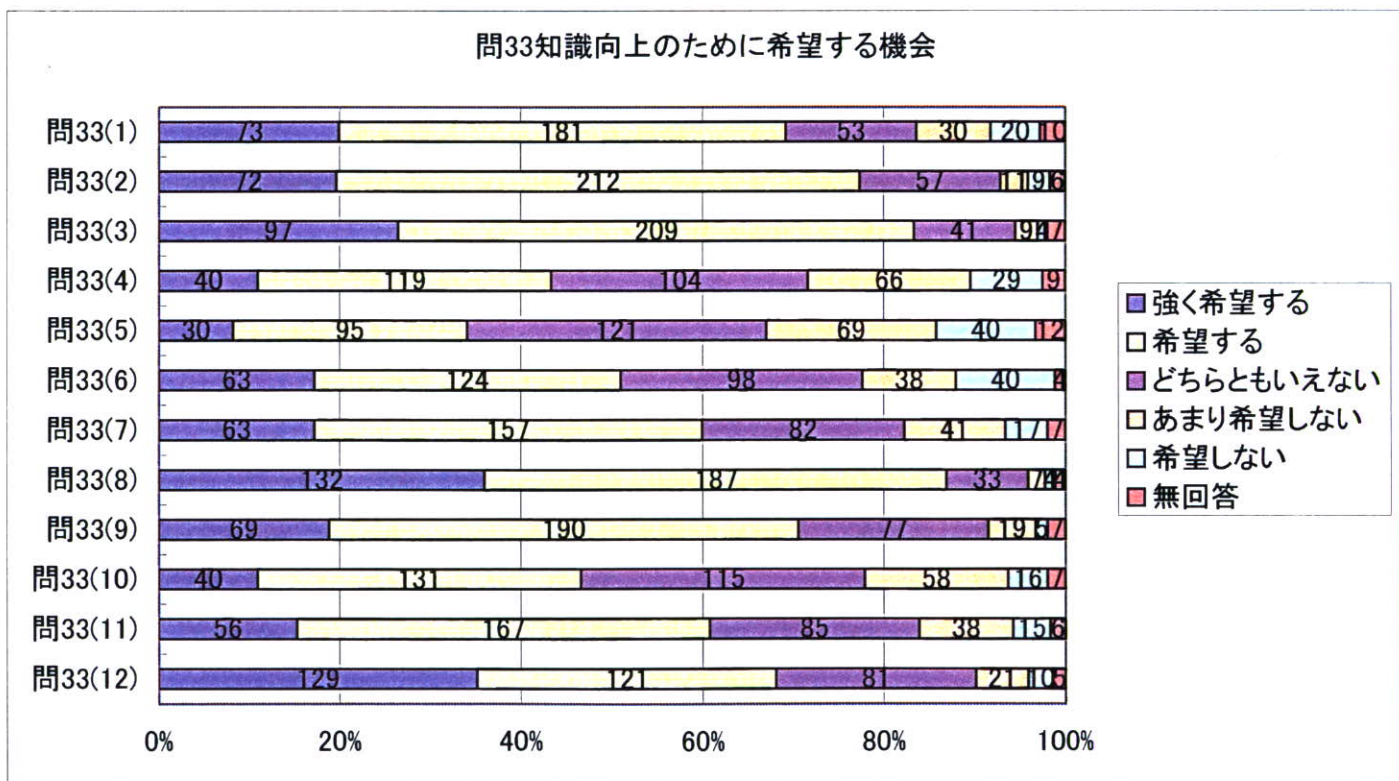
図 29

問 33：判定医としての知識向上のため、どのような機会を希望されるかをうかがいます。

- (1) 指定入院医療機関の見学・研修
- (2) 対象者についてのケースカンファランス
- (3) 司法関係者と医療関係者の合同カンファランス
- (4) 刑務所など矯正施設の見学
- (5) 裁判所の見学・傍聴
- (6) 海外の司法精神医学施設の見学・研修
- (7) 法律家による刑法などについての講習
- (8) 責任能力の考え方や判定についての講習
- (9) 症状評価やリスク評価についての講習
- (10) 認知行動療法についての講習
- (11) 人格障害、発達障害、物質関連障害などについての講習
- (12) 司法精神医学の研修センター、鑑定センターの設立

図 30

問33知識向上のために希望する機会



厚生労働省科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
分担研究報告書

医療従事者への司法精神医学の普及啓発と精神鑑定の質的向上に関する研究
分担研究者 倉知正佳
富山大学大学院医学薬学研究部（医学）精神科早期治療開発講座 教授

研究要旨

形態的磁気共鳴画像（sMRI）を用いた統合失調症の補助診断法の開発研究を行った。対象は、説明と同意の得られた被検者で、第1コホートは健常者40人（男性20人、女性20人）と統合失調症患者40人（男性20人、女性20人）、および第2コホートは健常者34人（男性17人、女性17人）と統合失調症患者34人（男性17人、女性17人）であった。Voxel-based morphometryを応用した判別分析により、第1コホートの75~80%が正しく（臨床診断と一致して）判別され、第2コホートの70~76%が正しく判別された。本結果は、sMRIを用いた客観的補助診断の有用性を示唆するもので、今後、他の精神疾患との判別も検討する予定である。

A. 研究目的

精神鑑定の質的向上のためには、精神医学的診断における客観的補助診断法を開発することが重要である。そこで、本研究では、前年度に引き続いて、対象を男女に拡大して、形態学的磁気共鳴画像（sMRI）による統合失調症の補助診断法の開発研究を行った。

B. 研究方法

説明と同意の得られた被検者で、第1コホートは統合失調症患者40人（男性20人と女性20人、平均年齢はそれぞれ25.5歳と26.4歳）、健常者40人（男性20人と女性20人、平均年齢はそれぞれ25.4と23.5人）、第2コホートは統合失調症患者34人（男性17人と女性17人、平均年齢はそれぞれ25.1歳と27.1歳）、健常者34人（男性17人と女性17人、平均年齢はそれぞれ24.0歳と24.1歳）を対象とした。対象者の脳形態を三次元MRIを撮像し、第1コホートのsMRIデータから、statistical parametric mapping（SPM）99と多変量解析プログラム（MM Toolbox）を用いて判別分析を行い、健常対象者と統合失調症患者を最もよく判別する判別関数（Eigenimage）を得た。その判別関数を第2コホートのMRIデータに適用して妥当性を検討した。関心領域法で上側頭回各区域の体積を計測した。本研究は本学倫理委員会の承認を得て行われた。

C. 研究結果

第1コホート群の判別分析から導かれたEigenimageは、背外側前頭前野、内側前頭葉、島、側頭葉と視床が正に加重され、被殻と小脳が負に加重されていた。Eigenimageを構成する関数により統合失調症患者の男性20人中18人（90%）、女性20人中16人（80%）、健常者の男性20人中15人（75%）、女性20人中16人（80%）が正しく（臨床診断と一致して）判別された。また、第1コホートから得られた判別関数を第2コホートに適用したところ、統合失調症患者の男性17人中13人（76%）、女性17人中12人（70%）、健常者の男性17人中13人（76%）、女性17人中13人（76%）が正しく判別された。

D. 考察と結論

Voxel-based morphometry法を応用した判別分析により、統合失調症患者と健常者を男女それぞれ70%以上の率で判別できたことは、脳形態画像の臨床的補助診断法としての有用性を示唆する。今後、他の精神疾患がどの程度鑑別できるかも検討する予定である。

E. 健康危険情報
なし。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Kawasaki Y, Suzuki M, Kherif F, Takahashi T, Zhou S-Y, Nakamura K, Matsui M, Sumiyoshi T, Seto H, Kurachi M: Multivariate voxel-based morphometry successfully differentiates schizophrenia patients from healthy controls. *NeuroImage* 34: 235-242, 2007
- 2) Takahashi T., Suzuki M., Tanino R., Zhou S.Y., Hagino H., Niu L., Kawasaki Y., Seto H., and Kurachi M.: Volume reduction of the left planum temporale gray matter associated with long duration of untreated psychosis in schizophrenia: a preliminary report. *Psychiatry Res. Neuroimaging*, 154: 209-219, 2007.
- 3) Kawasaki Y., Sumiyoshi T., Higuchi Y., Ito T., Takeuchi M., Kurachi M.: Voxel-based analysis of P300 electrophysiological topography associated with positive and negative symptoms of schizophrenia. *Schizophr Res* 94:164-171, 2007.
- 4) Uehara T., Sumiyoshi T., Matsuoka T., Itoh H., Kurachi M.: Effects of prefrontal cortex inactivation on behavioral and neurochemical abnormalities in rats with excitotoxic lesions of the entorhinal cortex. *Synapse* 61: 391-400, 2007.
- 5) Takahashi T., Suzuki M., Hagino H., Niu L., Zhou S.Y., Nakamura K., Tanino R., Kawasaki Y., Seto H., and Kurachi M.: Prevalence of large cavum septi pellucidi and its relation to the medial temporal lobe structures in schizophrenia spectrum. *Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry*, 31: 1235-1241, 2007.

2. 学会発表

- 1) Kurachi M: A structural MRI study and its clinical application. The meeting of Korean society of biological psychiatry, 2007, 3, Seoul.
- 2) Sumiyoshi T., Kawasaki Y., Higuchi Y., Matsui M., Suzuki M. and Kurachi M.: Neurocognitive assessment and pharmacotherapy: Towards prevention of psychosis. In Symposium "First Episode Psychosis: Integrating Neurobiological and Psychosocial determinants of outcome"; World Federation of Societies of Biological Psychiatry - The 2nd International Congress of Biological Psychiatry, 2007, 4, 20, Santiago, Chile.
- 3) Kawasaki Y., Suzuki M., Takahashi T., Kurachi M.,

and McGuire P. : Anomalous cerebral asymmetry in patients with schizophrenia demonstrated by voxel-based morphometry. The 20th European College of Neuropsychopharmacology Congress, 2007, 10, 15, Vienna, Austria.

- 4) Kawasaki Y., Suzuki M., Takahashi T., Iwata T., Sumiyoshi T., Matui M., Kurachi M., and Kazukawa S. : Clinical service for young people at risk of developing psychosis: Toyama early detection & intervention project. The XIX World Congress of the World Association for Social Psychiatry, 2007, 10, 22, Prague, Czech Republic.
- 5) Matsui M, Arai H, Yonezawa M, Tanaka K, Kurachi M: Influence of instruction on the Verbal Learning Test in patients with schizophrenia. 35th Annual Meeting of International Neuropsychological Society, 2007, 2, Portland.
- 6) 倉知正佳, 鈴木道雄: 画像解析による統合失調症の病態進行の critical period. シンポジウム: 統合失調症の病態進行・難治化と動物モデル. 第 29 回日本生物学的精神医学会, 2007, 7, 札幌.
- 7) 倉知正佳, 鈴木道雄, 川崎康宏, 住吉太幹, 上原隆, 高橋 努, 周 世晃: 統合失調症の病態と抗精神病薬. シンポジウム「精神疾患治療の基礎から臨床へ」. 第 127 回日本薬学会, 2007, 3, 29, 富山.
- 8) 荒井宏文, 松井三枝, 住吉太幹, 米沢峰男, 倉知正佳: 統合失調症患者に対する認知リハビリテーションの効果研究. 第 2 回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24, 富山.
- 9) Suzuki M, Takahashi T, Zhou S-Y, Kawasaki Y, Kurachi M: Effect sizes of regional cerebral volume changes revealed with MRI-based volumetry in schizophrenia and schizotypal disorder. 第 2 回日本統合失調症学会, 2007, 3, 富山.
- 10) 鈴木道雄, 川崎康弘, 高橋 努, 岩田卓也, 住吉太幹, 松井三枝, 数川 悟, 倉知正佳: 「こころのリスク相談」および「こころのリスク外来」における活動: 統合失調症の早期診断・早期治療の推進のために. 第 2 回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24, 富山.
- 11) 鈴木道雄, 川崎康弘, 高橋 努, 住吉太幹, 松井三枝, 倉知正佳: 統合失調症の早期診断・早期治療の実現のために. シンポジウム: 医薬理工融合による生命科学教育研究への富山発チャレンジ.

- 日本薬学会第127年会, 2007, 3, 富山.
- 12) 鈴木道雄、高橋 努、川崎康宏、周 世晃、上原 隆、住吉太幹、倉知正佳: 統合失調症における脳形態変化とストレス脆弱性. 第103回日本精神神経学会, 2007, 5, 17, 高知.
 - 13) Sumiyoshi T., Higuchi Y., Matsui M., Arai H., Takamiya C., Meltzer H.Y. and Kurachi M.: Effective adjunctive use of tandospirone with perospirone for enhancing verbal memory deficits and quality of life in schizophrenia: Role of serotonin-5HT_{1A} agonism. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24, 富山.
 - 14) 住吉太幹、樋口悠子、川崎康宏、伊東 徹、古市厚志、松井三枝、荒井宏文、倉知正佳: P300電流発生源密度分布に対するペロスピロンの効果: sLORETA を用いた統合失調症患者における検討. 第37回日本臨床神経生理学学会学術大会, 2007, 11, 21, 宇都宮.
 - 15) Kawasaki Y., Suzuki M., Sumiyoshi T., Takahashi T., Nakamura K., Matsui M., Kurachi M.: Multivariate analysis of voxel-based morphometry to characterize structural abnormality in patients with schizophrenia and their sexual dimorphism. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24, 富山.
 - 16) Kawasaki Y., Sumiyoshi T., Higuchi Y., Ito T., Takeuchi M., Kurachi M.: P300 electrophysiological topography associated with positive and negative symptoms of schizophrenia. 第29回日本生物学的精神医学会, 2007, 7, 12, 札幌.
 - 17) 川崎康弘、鈴木道雄、高橋 努、住吉太幹、岩田卓也、松井三枝、倉知正佳、数川 悟: 富山県における早期介入の試み—こころのリスク相談・こころのリスク外来—. 第167回北陸精神神経学会, 2007, 6, 24, 金沢.
 - 18) 川崎康弘、鈴木道雄、住吉太幹、樋口悠子、倉知正佳: 機能的磁気共鳴画像と事象関連電位を用いた相貌認知過程の時空間的解析. 第31回日本神経心理学会, 2007, 9, 27, 金沢.
 - 19) 角田雅彦、樋口悠子、住吉太幹、松井三枝、鈴木道雄、倉知正佳: 統合失調症圏患者における探索眼球運動. 第2回統合失調症学会, 2007, 3, 24-25, 富山.
 - 20) 角田雅彦、中村主計、田仲耕大、住吉太幹、鈴木道雄、倉知正佳: 平成18年度自殺未遂による1大学病院神経精神科入院患者について. 第168回北陸精神神経学会, 2007, 9, 9, 富山.
 - 21) Uehara T., Sumiyoshi T., Matsuoka T., Itoh H., Kurachi M.: Effects of the prefrontal cortex inactivation on prepulse inhibition in the rat with excitotoxic lesions of the entorhinal cortex. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24, 富山.
 - 22) Uehara T., Sumiyoshi T., Matsuoka T., Itoh H., Kurachi M.: Effects of the prefrontal cortex inactivation on behavioral and neurochemical abnormalities in the rat with excitotoxic lesions of the entorhinal cortex. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24, 富山.
 - 23) Takahashi T., Suzuki M., Zhou S.Y., Tanino R., Nakamura K., Kawaasaki Y., Matsui M., Seto H., Kurachi M.: Morphologic alterations of temporolimbic regions in schizophrenia spectrum: a volumetric MRI study. ワークショップ1: 脳画像1. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24-25, 富山.
 - 24) Takahashi T., Suzuki M., Zhou S.Y., Nakamura K., Tanino R., Kawasaki Y., Seto H., Kurachi M.: Prevalence of large cavum septi pellucidi and its relation to the medial temporal lobe structures in schizophrenia spectrum disorders: a magnetic resonance imaging study. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24-25, 富山.
 - 25) Takahashi T., Suzuki M., Tanino R., Zhou S.Y., Nakamura K., Kawasaki Y., Seto H., Kurachi M.: Duration of untreated psychosis and brain morphology in schizophrenia: a magnetic resonance imaging study. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24-25, 富山.
 - 26) Takahashi T., Suzuki M., Zhou S.Y., Tanino R., Nakamura K., Kawasaki Y., Seto H., Kurachi M.: A volumetric MRI study of the fusiform gyrus, parahippocampal gyrus, and middle and inferior temporal gyri in schizophrenia spectrum disorders. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24-25, 富山.
 - 27) Higuchi Y., Sumiyoshi T., Kawasaki Y., Matsui M., Kato K., Yuuki H., Arai H. and Kurachi M.: Electrical brain activity and response to olanzapine in schizophrenia: A study with LORETA images of P300. 第2回日本統合失調症学会, 2007, 3, 24, 富山.
 - 28) 樋口悠子、住吉太幹、川崎康弘、伊東 徹、松井三枝、荒井宏文、倉知正佳: Electrophysiological basis for the ability of olanzapine to ameliorate verbal